

英語科学習指導案

日 時 平成21年9月11日(金) 5校時
場 所 2年 組教室
授業学級 盛岡市立仙北中学校 2年 組
(男子 名 女子 名 計 名)
授 業 者 教諭 大澤重之 教諭 佐藤亨

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (New Horizon English Course 2 東京書籍)

2 単元について

(1) 教材について

この単元は、アメリカでのホームステイを題材としている。前半は、ホームステイの心得のアドバイスと、滞在先での初めてのベッドメイキングについての対話があり、後半はホームステイに来ている生徒からの相談と、先生の応答を扱っている。ほとんどの生徒にとってホームステイは未経験である。しかし、「完璧な英語でなくてもいいから英語を話すこと」や「率直かつ丁寧に意志を伝えること」など、コミュニケーション一般に大切なことが含まれており、ホームステイの心構えとともに、コミュニケーションの基本的態度について考えさせたい。

言語材料としては、**have to** と **will, must** などの助動詞を扱う。「～しなければならない」という義務を表す **have to** と、「～する必要がない」の **do not have to** は、**have** がこれまでとは異なる意味で使われており、発音も変化していることを確認したい。助動詞の **will** は未来の意志を表している。既習事項の **be going to** が「あらかじめ予定されていること」を表し、**will** が「その場の状況に応じた話者の意志」を表していることを理解させたい。助動詞 **must** は **have to** と同じく「～しなければならない」という義務を表しているが、否定文の **must not** は「～してはいけない」という禁止の意味を表し、**do not have to** との違いを理解させたい。

have to と **must, will** と **be going to** に関しては、それぞれの持っている意味を考えて使用する必要がある。しかし、生徒の理解の状況により、互換性があるものとして積極的に使わせるようにしたい。

(2) 生徒について

組の生徒は、英語への興味・関心を持つ生徒が多く、単語の意味調べやワークなどの課題にしっかり取り組んでいる。授業でも、時間内にできるだけたくさん音読練習をしようとするなど、努力している。しかし、英語に対する苦手意識持つ生徒も多く、学力差も大きい。苦手意識を持っている生徒が意欲的に学習できるように、生徒の興味を引く題材を取り入れたり、基本文を繰り返し練習したりしながら、どの生徒も自信を持って英語を使えるよう心がけている。

「学習のきまり十箇条」については、「2 自習をして先生を待つ」に関わり、3分前学習を行っている。また、「5 私語をしないで、話をよく聞く」に関わり、振り返りカードに「聞き方」の項目を取り入れている。

(3) 指導について

①「教材とのかかわらせ方」について

ホームステイに関する常識を理解しながら、家族の一員としての生活の仕方や、異文化でのコミュニケーションの取り方について考えさせたい。また、これまでも、国や地域により様々な場面でルールが異なることを学習してきたが、新しい言語材料を用いて、日本に来る外国人への簡単な助言や忠告を考えさせたい。

新学習指導要領では「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」とある。そこで、英作文は1文で終わらせることなく、つながりのある2文を書くことを目標として、内容的にまとまりのある文章を書く力を養わせたい。

②「友達とのかかわらせ方」について

英語がコミュニケーションのために用いられることを意識し、ペアやグループでの活動を通して、英語を使って自分の考えを伝え、相手の考えを理解することを目指す。また、グループ活動には、わからないことを教え合い、間違っても安心して活動できるという良さがある。苦手意識を持っている生徒のためにも、グループ活動を積極的に取り入れたい。

本校では、JTE 同士の TT を週 1 回行っている。TT の利点を活かして、コミュニケーションのモデルを示し、英作文では生徒への支援を効果的に行いたい。

3 単元の指導目標

- (1) 間違えることを恐れずに、既習の英語表現を用いて簡単な対話をしたり、自分の考えを伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 伝えたいことを **have to, will, must** などを用いて、相手に正しく伝えることができる。(表現の能力)
- (3) **have to, must** を用いて、日本に来る外国人への簡単な助言・忠告などができる。(表現の能力)
- (4) **have to, will, must** を含んだ文を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。(理解の能力)
- (5) 教科書本文の内容を読んで理解することができる。(理解の能力)
- (6) **have to, will, must** を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。(言語や文化についての知識・理解)
- (7) ホームステイについて知り、外国の人々の物の見方や暮らし方などの違いについて理解できる。(言語や文化についての知識・理解)

4 指導計画 (7 時間)

- (1) Starting Out 2 時間
- (2) Dialog 2 時間
- (3) Reading for communication . . . 3 時間 (本時 3 / 3)

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①外国での生活についての注意点を理解することができる。(理解の能力)
- ②**have to, must** を用いて、日本に来る外国人への簡単な助言・忠告などができる。(表現の能力)

(2) 本時の評価規準と具体的評価規準

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
理解の能力	have to, must を含んだ文章を読んで、外国での生活についての注意点を理解することができる。	have to や must を含んだ文を読んで、その内容を理解することができる。	注釈や、前後の文を頼りにして読み取るように支援する。
表現の能力	have to や must を用いて、日本での生活についてのアドバイスを、つながりのある 2 文で正しく書くことができる。	have to や must を用いて、日本での生活についてのアドバイスを書くことができる。	グループワークによる教え合いや、机間指導を通じて、英文を作らせる。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 Warm-up	・ペアで Quick Quick を行う。	・時間内にできるだけたくさん言わせる。
	2 学習課題の設定	・外国での生活に関する注意点を聞き、内容を考える。 ・本時の課題を確認する。	
日本でのホームステイや学校生活についてのアドバイスを考えよう			
展開 40分	3 課題解決の見通し	・外国での生活についての注意点を読み取る。 ex.) We only have five minutes between classes. You have to move quickly.	◎理解の能力 ・have to や must の使い方を確認する。 ・つながりのある文章を意識させる。
	4 課題の追求 (1) 表現活動	・日本でのホームステイや学校生活についてのアドバイスを考え、英文を作成する。	◎ (表現の能力) 書くことが苦手な生徒に対して、T1T2 が効果的に支援する。
	(2) グループ活動	・グループ内で自分の考えを伝え、つながりのある文になっているか確認し合う。(3~4人)	
5 課題のまとめ	・他の人の英文を参考にしながら、自分が作った英文をもう一度見直す。 ex.) We clean our classroom. You have to clean with us.	◎ (表現の能力)	
終末 5分	6 学習の振り返り	・学習のまとめをし、振り返りカードに記入する。	
	7 次時予告	・次時の学習内容を確認する。	

(4) 評価

- ①外国での生活についての注意点を理解することができたか。(理解の能力)
- ②have to, must を用いて、日本に来る外国人への簡単な助言・忠告などができたか。(表現の能力)